

2024年5月30日 日本子ども宣教会学院福音化6月1課

6月第1課は、レムナントが成し遂げたエリコ作戦です。

ヨシュア 6章 8～10節

08 ヨシュアが民にそう言ったとき、七人の祭司たちは、七つの雄羊の角笛を持って主の前を進み、角笛を吹き鳴らした。主の契約の箱はそのうしろを進み、

09 武装した者たちは、角笛を吹き鳴らす祭司たちの前を行き、しんがりは角笛を吹き鳴らしながら箱のうしろを進んだ。

10 ヨシュアは民に命じた。「あなたがたはときの声をあげてはならない。声を聞かせてはならない。口からことばを出してはならない。『ときの声をあげよ』と私が言うその日に、ときの声をあげよ。」

6月は5週間あって、学院福音化のメッセージの内容は非常に多いです。

3週間はヨシュア記からのみことばです。4週目は士師記。最後の5週目はサムエル記第一です。

学院福音化のテキストに出ている聖書箇所だけを見るのではなく、全体の内容を聖書で直接読んでみてください。そして、注意することは、聖書を読むときは、人物中心の歴史の本のように読まないでください。イエス・キリスト中心の救いの歴史を中心に読んで黙想してください。

結局、聖書は一つだけ話すのです。それは、イエスを通した救いです。私たちの人間は、ただ土で、ちりであり、Nothing、絶対不可能な存在であることを知るべきです。そのような不可能な人間を、神様が神の民としてくださるために、キリストを通してすべての恵みをみな一度に注いでくださいました。そのようにして神の民としてくださったことを話しているのが聖書です。そして、キリストをかしらとする教会として私たちが立て上げて行ってくださいます。私たちがすることは何もありません。

今日は、エリコの征服についての内容です。

カナンという約束の地は、すでにアブラハムのときから神様が約束してくださった所です。そのカナン征服において、いろいろな種族と戦争もすることを、あらかじめ話をされました。そのカナン征服の初めての征服戦争が、エリコでした。乳と蜜の流れる、敵のいない地をそのまま与えてくださったなら良かったのに、なぜ七つの部族と、31の王と戦うようにされたのでしょうか。その理由はなぜでしょうか。不可能であるイスラエルを可能に変えようとするのでは、絶対に違います。私たちにある程度の影響力を備えさせて「そのとき、わたしが何かをする」と待っておられるのではないということです。あいかわらず不可能なイスラエルなのですが、絶対可能な神様が働かれるということ、分からせようとするのが目的なのです。「わたしが神であり、あなたは被造物だ」ということを教えられるということでしょう。そのまま私たちは、すべて成されて行くことの中で、私がしたことは何もないと告白すれば良いということです。私には、すぐれていることは絶対にないのだということ、分かれば良いのです。

そのカナンの征服、そしてエリコの征服について、モーセに最初に与えられみことばは、何だったかを先に見てみましょう。

しんめいき しょう せつ
申命記9章1節から3節です。

01 聞け、イスラエルよ。あなたは今日、ヨルダン川を渡って、あなたよりも大きくて強い国々を占領しようとしている。その町々は大きく、城壁は天に高くそびえている。

02 あなたがよく知っているアナク人は、大きくて背が高い民である。あなたは「だれがアナク人に立ち向かえるだろうか」と言われるのを聞いたことがある。

03 今日、知りなさい。あなたの神、主ご自身が、焼き尽くす火としてあなたの前を進み、彼らを根絶やしにされる。主があなたの前で彼らを征服される。あなたは主が約束されたように、彼らをただちに追い払って滅ぼすのだ。

すでに40年前に、カデシュ・バルネアに留まったときに、モーセを通して約束された内容です。ここで重要なことは、3節にあります。「主ご自身が、焼き尽くす火としてあなたの前を進み」ということです。神様が先に進んでおられるので、あなたがたは後について行けば良いということでした。それにもかかわらず、不信仰になって40年間の荒野生活をしたのでした。いま40年が過ぎた後、申命記で神様の命をイスラエルに伝達している場面です。「申命記」という言葉の意味が再び伝えるという意味です。

ここで、また重要なのは、このように約束をしてくださり、神様が先立って行われると言われたでしょう。そして、神様がすると言われたのですが、その後の4節からを見てみましょう。

04 あなたの神、主があなたの前から彼らを追い出されたとき、あなたは心の中で、「私が正しいから、主が私をこの地に導き入れ、所有させてくださったのだ」と言ってはならない。これらの国々の邪悪さのゆえに、主はあなたの前から彼らを追い出そうとおられるのだ。

05 あなたが彼らの地を所有することができるのは、あなたが正しいからではなく、またあなたの心が真っ直ぐだからでもない。これらの国々の邪悪さのゆえに、あなたの神、主があなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。また主があなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブになされた誓いを果たすためである。

06 知りなさい。あなたの神、主は、あなたが正しいゆえに、この良い地をあなたに与えて所有させてくださるのではない。事実、あなたはうなじを固くする民なのだ。

07 あなたは荒野であなたの神、主をどれほど怒らせたかを忘れずに覚えていなさい。エジプトの地を出た日からこの場所に来るまで、あなたがたは主に逆らい続けてきた。

4節では、あなたたちが自らした、あなたたちが正しいからと言ってはならないと言われています。

神様がすべてされるのですが、それにもかかわらず、「あ、これは私がしたことで、私が正しいからそのようなことができた」と言ってはならないと、今この短い聖書箇所の中で3回も繰り返して語っておられます。エリコをはじめ、7部族31人の王たちは、彼らの邪悪さ、罪ゆえに滅びただけだということです。

6節でも、イスラエルは何だと言われているか。「あなたはうなじを固くする民なのだ」と言われているでしょう。7節でも言われます。「エジプトの地を出た日からこの場所に来るまで、あなたがたは主に逆らい続けてきた。」神様がイスラエルに願われることは何一つありません。イスラエルと関係なく、神様は神様の働きをしておられたのです。

このようにやくそくされたカナン^ちの地を占領^{せんりょう}する最初の町^{さいしょ まち}であるエリコ^{せいふく}を征服^{ないよう}する内容は、ヨシュア記^き 6章^{しょう}の今日^{きょう}読んだ本文^{ほんぶん}もそうですが、皆さん^{みな}がヨシュア^{しょう} 6章^{しょう}をくわしく読んでください。
簡単に^{かんたん}に話せば^{はな}、六日間^{むいかかん}は一日^{いちにち}に一回^{いっかい}ずつを回り^{まわ}なさい。エリコ^{まち}の町は、とても大きい町^{おお まち}であり、とても強い町^{つよ まち}でした。その城壁^{じょうへき}の上の道^{うへ}が、広いところは2.7mくらいだったと言われて^いいます。城壁^{じょうへき}の上の道^{うへ}に馬車^{ばしや}が通^{かよ}えるくらい^{はば}の幅^{ひろ}があったということです。人間^{にんげん}の力^{ちから}では崩^{くず}せない城壁^{じょうへき}でした。そして、最後の七回目^{さいご ななかいめ}は、七回^{ななかいまわ}回りなさいと言^いわれました。全部^{ぜんぶ}で13回^{かいまわ}回ったのです。今日^{きょう}読んだ箇所^よに、「口^{くち}からことばを出^だしてはならない」と言^いわれています。

わたしもかんがえてみました。最初^{さいしょ}の日^ひ、一回^{ひとまわ}りは、「しなさいと言^いわれたからやろうか」と回^{まわ}ったと思^{おも}います。しかし、三日^{みっか}、四日^{よっか}、五日^{いつか}過ぎれば、「これを回^{まわ}って本^{ほん}当^{とう}に崩^{くず}れるのかな」と、たぶん疑^{うたが}いを持^もったでしょう。小さい町^{ちい}ではなく、最後^{さいご}の日^ひ、七回^{ななかいまわ}を回^{まわ}ったときには、みんな怒^{いか}りが出^でて来^きていたのではないでしょう^か。皆さん^{みな}だったらどうでしょう。口^{くち}を閉^とじて、「崩^{くず}れる崩^{くず}れるか、信^{しん}じます」と思^{おも}いながら見^みたでしょう^か。私^{わたし}だったら、そうではないと思^{おも}います。イスラエルの民^{たみ}も、ほとんどの疑^{うたが}っていたのではないかなと思^{おも}います。マタイ5章^{しょう}に、イエス様^{さま}が「情欲^{じょうよく}を抱^{いだ}いて女^{おんな}を見る者^{もの}はだれても、心^{こころ}の中^{なか}ですでに姦淫^{かんいん}を犯^{おか}したのです」と言^いわれています。ですから、心^{こころ}の底^{そこ}から不平^{ふへい}不満^{ふまん}、恨^{うら}みを持^もったことは、すでに神^{かみ}様^{さま}対^{たい}して不順^{ふじゆん}従^{じゆう}だったということでしょう。

最後^{さいご}に七回^{ななかいまわ}、回^{まわ}ったとき、祭司^{さいし}が角笛^{つのぶえ}を吹^ふき鳴^ならし、その音^{おと}を聞^きいたらイスラエル^{いすらい}は大声^{おおごえ}でとき^{こえ}の声^{こえ}をあげなさいと言^いわれました。その角笛^{つのぶえ}の音^{おと}を聞^きいたその瞬間^{しゆんかん}でも、疑^{うたが}っていたかもしれ^ません。角笛^{つのぶえ}の音^{おと}と大声^{おおごえ}でとき^{こえ}の声^{こえ}をあげたとき、本^{ほん}当^{とう}に崩^{くず}れました。たぶん、「わー！」と言^いいながら驚^{おどろ}いたでしょう。「本^{ほん}当^{とう}に崩^{くず}れたよ！」と。そのようにして、エリコ^{せいふく}を征服^{せいふく}しました。

そのとき、エリコ^{まち}の町^{せいふく}を征服^{のち}した後に、その中^{なか}に遊女^{ゆうじょ}ラハブとその家^か族^{ぞく}以外^{いがい}は、すべて老^{ろう}若^{にやく}男女^{だんにょ}を問^とわず殺^{ころ}せと言^いわれました。そしてその中^{なか}の銀^{ぎん}や金^{かね}、青銅^{せいどう}や鉄^{てつ}の器^{しゆ}は、主^{しゆ}にすべてささげるようにしなさいと言^いわれました。その内容^{ないよう}は6章^{しょう} 17から18節^{せつ}にあります。

17 この町^{まち}とその中^{なか}にあるすべてのものは主^{しゆ}のために聖^{せい}絶^{ぜつ}せよ。遊女^{ゆうじょ}ラハブと、その家^{いえ}にとともにいる者^{もの}たちだけは、みな生^いかしておけ。彼女^{かのじょ}は私^{わたし}たちが送^{おく}った使^{つか}いたちをかくまってくれたからだ。

18 あなたがたは聖^{せい}絶^{ぜつ}の物^{もの}には手^てを出^だすな。あなたがた自身^{じしん}が聖^{せい}絶^{ぜつ}されないようにするため、すなわち、聖^{せい}絶^{ぜつ}の物^{もの}の一部^{いちぶ}を取^とってイスラエルの宿^{しゆく}営^{えい}を聖^{せい}絶^{ぜつ}の物^{もの}とし、これにわざわいをもたらさないようにするためである。

とても厳しい命令^{めいれい}でした。

ところで結局^{けっきよく}、7章^{しょう} 1節^{せつ}を見ると、アカンという人物^{じんぶつ}がでてくるのですが、彼^{かれ}が聖^{せい}絶^{ぜつ}の物^{もの}の一部^{いちぶ}を隠^{かく}しました。

01 しかし、イスラエルの子^こらは聖^{せい}絶^{ぜつ}の物^{もの}のことで主^{しゆ}の信^{しん}頼^{らい}を裏^{うら}切^ぎった。ユダ部族^{ぶぞく}のゼラフの子^こザブディの子^こであるカルミの子^こアカンが、聖^{せい}絶^{ぜつ}の物^{もの}の一部^{いちぶ}を取^とった。それで、主^{しゆ}の怒^{いか}りがイスラエルの子^こらに向^むかって燃^もえ上^あがった。

皆さんがこの箇所で見逃すべき部分があります。たしかにアカンというひとりの人物が罪を犯しました。ところが、1節には、イスラエル全体が罪を犯したことで、それでイスラエル全体に主の怒りが燃え上がったと表現されています。

7章11から12節も同じ内容です。

11 イスラエルは罪ある者となった。彼らはわたしが命じたわたしの契約を破った。聖絶の物の一部を取り、盗み、欺いて、それを自分のものの中に入れることまでした。

12 だから、イスラエルの子らは敵の前に立つことができず、敵の前に背を見せたのだ。彼らが聖絶の者となったからである。あなたがたの中から、その聖絶の物を滅ぼし尽くしてしまわないなら、わたしはもはやあなたがたとともにはいない。

アカンの犯罪、ひとりの犯罪だったのですが、イスラエル全体が罪人になってしまい、それゆえ、そのアカンを探し出して罰を与えなければ、イスラエル全体が罰を受けることになると言われていました。

ここで、皆さんが思い浮かぶことはありますか。アダムひとりが罪を犯したゆえに、全人類が罪人になったように、アカンひとりのために、イスラエル全体が罪人になってしまったのです。

ローマ5章19節「すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです。」

ひとりの従順によって、多くの人が義人となったと書いてあります。このアカンの内容は、さらに深い意味があるのですが、結局、イエス・キリストの模型の人物でもあるということです。(もっと知りたい方は、後ほど広島を訪ねて来てください。アカンが石に打たれて死んだ、そこはアコルの谷だと言われていました。そこは、イエス様が亡くなった場所です。)

このアカンの事件によって、その次に征服する町であったアイの町は、比較的小さな町で、民の人数も少ない所だったのですが、そのアイの町の征服で、完全に負けてしまいました。イスラエル全体が行かず、3千人を選んで送ったのですが、完全に負けて追い出されてしまうようになります。そのアイに負けた事件によって、ヨシュアも神様の前にこのような不平不満を言います。ヨシュア7章7節のみことばです。

07 ヨシュアは言った。「ああ、神、主よ。あなたはどうして、この民にヨルダン川をあえて渡らせ、私たちをアモリ人の手に渡して滅ぼそうとされるのですか。私たちは、ヨルダンの川向こうに居残ることで満足していたのです。

それは、まるで紅海の前でのイスラエルの民が恨んで言ったことと同じでないでしょうか。ヨシュアも一時的にイエスの模型となったモーセに代わった指導者として用いられたのですが、結局は、ヨシュアも同じイスラエルであり、また、罪人であったのです。

私が言いたいのは、レムナントが成し遂げたことは、何もないということです。神様が用いられて、一時的にその神様のみこころが成就される所に用いらただけだということです。聖書全体がその話です。

ですから、このエリコの征服の内容の結論は、神様の恵みによってなされたということです。イスラエルをはじめとして、すべての人間は、自ら神様に従順にすることはできない者です。ですから、神様が先に進まれて、後に従ってくるだけすれば良いと命令されるのです。

黙示録19章を見ると、完全な勝利を語られています。すべての女性が待っている白馬に乗った王子が出て来ます。それは、イエス様です。ところで、そのイエス様が直接すべての戦いを戦って、その服は血で染まっていた。その後に従う神様の軍隊、つまり、私たちがですが、同じように白馬に乗って亜麻布の服を着ているのですが、彼らが着ている服は真っ白のままです。汚れていないのです。イエス様が直接、ご自分の血を流しながらみな戦って勝って勝利して、ただ私たちはきれいな服そのまま私たちが手を使うこともなく、力を使うこともなく、その後を追いかけて行けば良いということです。

最後に読む聖書箇所は、このエリコの征服についてのヘブル人への手紙の記者の告白です。

ヘブル 11章 30節

信仰によって、人々が七日間エリコの周囲を回ると、その城壁は崩れ落ちました。

ここで、イスラエルの民が自分たちの信仰を持って回ったという内容ではありません。ヘブル 11章に出てくる信仰は、所有格（～の信仰）ではなく主格（信仰が）でみな書かれています。それは、信仰というその主体によって、人々がこのようになったという意味です。その信仰はだれの信仰でしょうか。イエス・キリストの信仰です。

それゆえ、ヘブル 12章 2節に、このように記録されています。

02 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

私たちが作り出す信仰、または、私が私のことで持つことができる信仰はありません。イエス・キリストの、その信仰が私たちに入ってきて、私たちの導いてくださるだけなのです。神様の恵みによってなされたエリコの作戦でした。

以上です。